

# Data Empowerment

## — データに価値を

インタビュー

ウイングアーク1st株式会社

<http://www.wingarc.com/>

本社 〒106-6235 東京都港区六本木3-2-1 六本木グランドタワー

・事業内容: 帳票事業・BI事業・データ提供サービス

・創業: 2004年3月

・資本金: 2億円

・拠点: 国内9拠点、中国、シンガポール、オーストラリア



### 独創的な技術で製品開発

ウイングアーク1stは、2004年に創業した企業です。データからエネルギー革命を起こす「The Data Empowerment Company」を掲げ、ソフトウェアやサービスの提供をしています。主な事業は、帳票ソフトウェアやBIツールの開発と提供ですが、最近ではアパレル系のWebプラットフォームの構築をはじめ、業種に特化したサービスも展開しています。

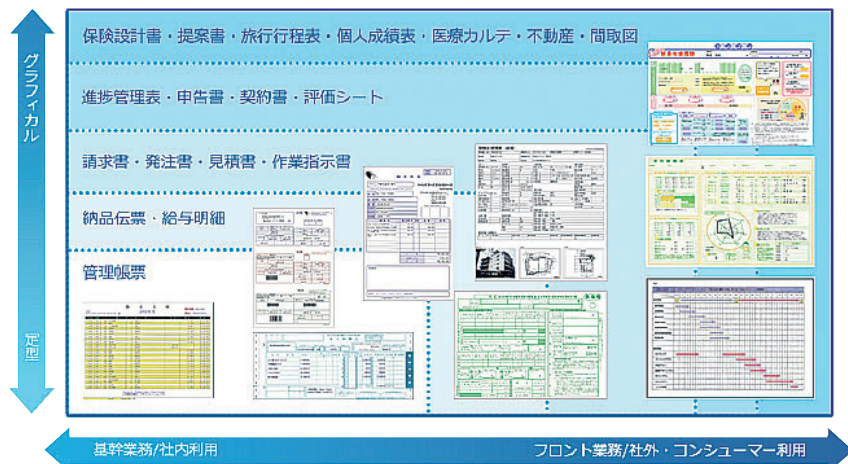
その中でも起業当初から開発・提供している帳票ソフトウェア

「SVF」は21,000社を超えた企業にご利用いただいています。SVFとは、伝票や請求書、または発注指示書など、企業取引の際に必ず生じる帳票を設計から出力までを運用するソフトウェアです。本製品が販売された当時は、お客様の業務に合わせた帳票をプログラミングにより設計構築するのが主流でした。一から帳票の設計構築を行う場合は、長期間のプロジェクトを必要として多くの人件費や工数がかかってしまいます。そうしたプログラミングをすることなく、短期間・低コストでバラエティ豊かな帳票をデザインすることができるツールとして「SVF」は生まれました。

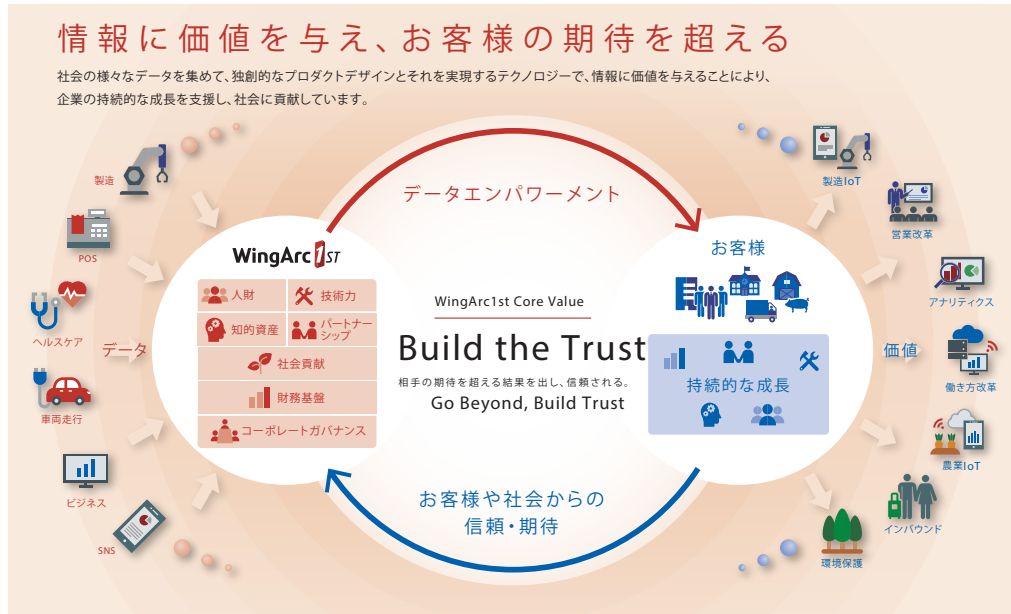
主要メーカーのプリンターをはじめ、多様なシステム環境で利用され、出力環境に依存せず柔軟に帳票の出力ができるのが強みです。一人で一ヶ月かかっていた開発工数を10分の1にしたという実績もあります。

販売当時、システムからの帳票出力を大きく変えたSVFですが、あくまでレイアウトが決められた定型の帳票に対する出力がメインでした。次第に同じデータであっても帳票のレイアウトを都度変更して柔軟に出力したい、との要望をうけるようになりました。

そこで弊社は記載枠の決められていない



用途に合わせた帳票管理を行うSVF



ウイングアーク1stのビジネス

非定型の帳票にも対応し、データ集計が可能な「Dr.Sum」を開発しました。

これにより、あらゆるシステムにおける帳票の出力を長年支え続けてきたのです。

## 情報を価値あるものに

弊社は、「Data Empowerment (データエンパワーメント)」というコンセプトを掲げています。これは、単に帳票上の情報をそのまま扱うのではなく、その情報を組み合わせることにより、データに価値をもたらすというものです。多くの情報を持っていてもそれを利用しなければ価値がありません。これらを集計し、分析することにより、やっと情報に価値を見出すことができるのです。

たとえば法対応文書の取り扱いを考える時、一般的にはその原本の保管をどのように管理するかということに目が向きがちで、その文書に書かれた情報をさらに活用しようとするには考えが及びません。保管することはもちろん重要ですが、それだけではそれら文書が持っている情報は、有効活用されずに埋もれたままになります。文書が持っている情報が得られれば、保管期限の到来を知ることができ、多くの人が閲覧しているか否かの分析もできます。その文書が本当に必要な文書であるか判断ができるのです。しかもデータはあらゆる角度から視覚的に把握することが必要ですから、こうしたニーズにも応えられるようデータの分析をスマートに表現することにこだわった「MotionBoard」という製品も開発し、いろいろな組み合わせや量によってその意味や価値を引き出せるようにしました。

## 社内実践で電帳法対応

弊社では「SPA」という自社開発の電子活用ソリューションを用いて電子帳簿保存法の社内実践を行っています。対象は経理部門が業務を管理している請求書や領収書のワークフローの電子化業務です。ワークフローシステムと「SPA」を連携し、PDFで格納された電子データにタイムスタンプの付与や事務処理要件である確認業務などを電子データ上で行うものです。もちろん国税局への申請は終了した上での運用です。

実践当初、本来紙である領収書を電子化して運用することは内部的に抵抗があるのではと考えていましたがまったくそのようなことはなく、むしろ紙に縛られていたものが電子データでチェックすることができるようになり喜ばれました。結果、間接業務である経理部門もテレワークを実施することができるようになったのです。時には電帳法対応を検討されるお客様に経理部門のメンバーを連れていき、経験などを話してもらうことで導入のメリットを理解していただくこともあります。試行錯誤で実践した事例は説得力もあり、弊社と同じ取り組みを希望される大手企業にも導入いただけるなど、実績に繋がっています。

また弊社内ではさらなる電子的業務効率化を推し進めるため新たな取り組みを行っています。現在注力しているのは、取引先から届く支払い通知書の入力業務の効率化です。データ抽出はRPA技術などでできますが、そのデータをERPと結びつけるために整頓・正規化する、つまり使えるデータにすること、また目視でしていたチェックを自動化することが狙いです。どの経理業務においても発生している負担ある入力業務を、自社実践を経ることで製品投入でき、ノウハウをお客様に提供できると考えています。



## 共有できるデジタルドキュメントを

JIIMAには4年前に入会しました。JIIMA活動の領域が、自らの生業である帳票系の分野であることと、電子帳簿保存法の対応など最新動向を得たいということからです。弊社は、標準化委員会に参加し、PDF規格の国際会議にも出席させていただいています。活動を通してさまざまな知識が得られています。

また社内では、文書情報管理士の資格取得を推奨しており、管理部の人間を含め60名近くの方が取得しています。なぜ文書の管理が必要なのか?をお客様にわかりやすくお伝えするなどの活動をしています。JIIMA主催のセミナーにも講師として参加させていただいており、弊社内での取り組みなどもお話しする機会を得ています。

JIIMAに対する期待として、企業間の文書流通の基盤を構築していただきたいと思っています。基盤が確立できれば、より効率の良い業務が実現できるのではないかと考えています。たとえば日本は、公共の文書のフォーマットが統一されていないために情報の共有が難しくなっています。これらの文書フォーマットが統一されることによって文書流通がたやすく、人々の生活に活かされると考えられます。e-文書法実践が当たり前になるようにJIIMAには活動を推し進めていただき、企業ができないメッセージを発信してほしいと思います。



無限の可能性を引き出すデータ活用を支援します

技術本部SVF・SPA統括部 統括部長  
営業・ソリューション本部 帳票事業 戦略担当部長

名護屋 豊(左)  
大垣 考広(右)

## さらなる商品開発をめざして

お客様からは電子保管のクラウド利用についての問い合わせが多くなっています。今はクラウドサービスの提供に向け、製品をブラッシュアップしています。そのためのISO取得も視野に入れていますし、前述したデータ集計と分析をさらに推し進め、紙文書のOCR化だけでなく、電子データのキャプチャーにも注力していきます。

また各地に弊社の拠点を設けて、営業や製品のサポートをより手厚く展開していきます。地域のお客様の課題に、いざという時に機動的なサポート力を発揮し、また新しく開発した製品に関しては、販売していただくパートナーの方々の知識向上のため、各地に拠点があれば即座に支援することが可能です。

自社実践で養ったノウハウを活かし、情報活用のさらなる電子的運用を実現したいと考えています。

## 御社の文書管理診断します！ 文書管理達成度評価・調査ご協力をお願い

### 「皆さんの組織の文書管理のレベルはどのくらいですか？」

各組織では、内部統制、説明責任など、社会のさまざまな要請にもとづいて文書管理を実践しています。しかし、文書管理のレベルを測る仕組みがなく、これで十分なのか、不足している点は何かを知ることが難しいのが実情だと思います。

JIIMA文書管理委員会では、そんな疑問を解消し、各部門が正しく文書管理ができていないかを診断するサービスを開始しました。貴社組織の現状を回答シートに書き込み送付いただければ、文書管理委員会が診断しお返しします。

将来的にはご提供いただいた情報を元に、日本における組織の文書管理現状をまとめ、その中で各組織がどのレベルに位置づけられるかをわかるようにしたいと考えています。

自社の文書管理に関心がある組織の方々のご利用をお待ちしています。

### メリット

- 自社の強みや弱みを明確に把握することができるとともに、取り組むべき方向性も明らかになり、文書管理の改善に結びつけられます。
- 他社のレベルと比較でき、自社の文書管理推進の動機付けになります。
- 一定の時間が経過した後に再評価することにより、自社の改善の度合いを確かめることができます。

詳細は右記URLを参照ください。 [https://www.jiima.or.jp/basic/doc\\_mng/](https://www.jiima.or.jp/basic/doc_mng/)